



平成28年3月7日

## 平成27年度公立小・中学校における 教育課程の編成・実施状況調査の結果について

文部科学省では、小・中学校教育に関する政策の企画、立案等のために、標記調査を実施しています（前回は平成25年度）。このたび、その結果を取りまとめましたので、公表します。

### 1. 調査内容

#### （1）調査対象

全ての公立小学校、中学校、中等教育学校前期課程の平成27年度計画について  
（一部平成26年度実績を含む。）

#### （2）調査手法

都道府県・指定都市教育委員会を通して調査を実施

#### （3）調査期間

平成27年9月29日～平成27年11月6日

### 2. 調査結果の概要

次ページ以降のとおり

<担当> 文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教育課程企画室 小野、谷原、花崎  
03-5253-4111（代表）（内線2369）

## 調査結果の概要

### ○ 小・中学校の授業時数の状況（本体P1）

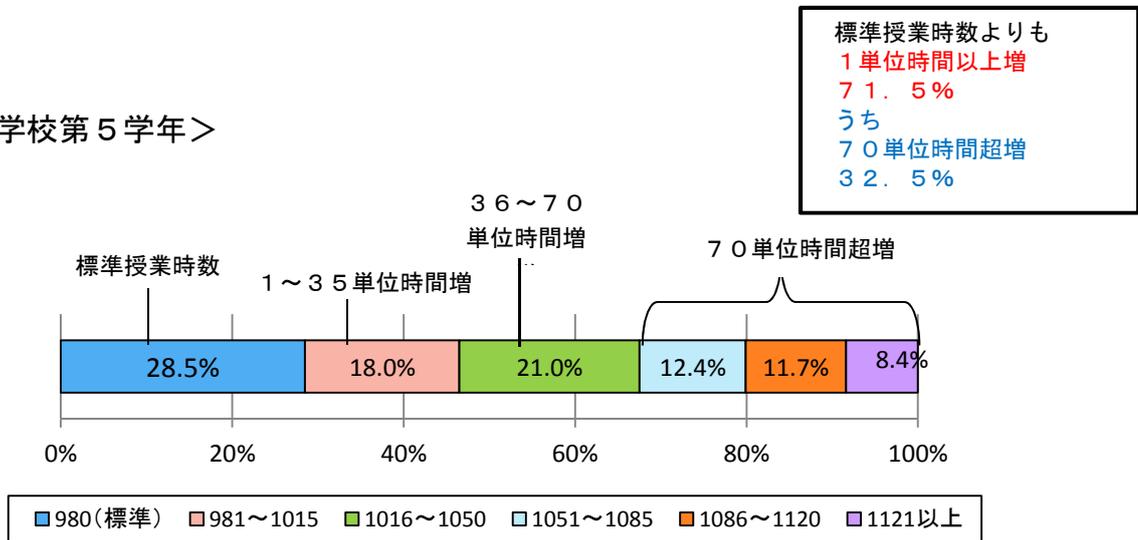
\*（）内は前回調査時（平成25年度の数字）

平成27年度（計画）における公立小・中学校の授業時数について、学校教育法施行規則に定める標準授業時数との関係を見ると、

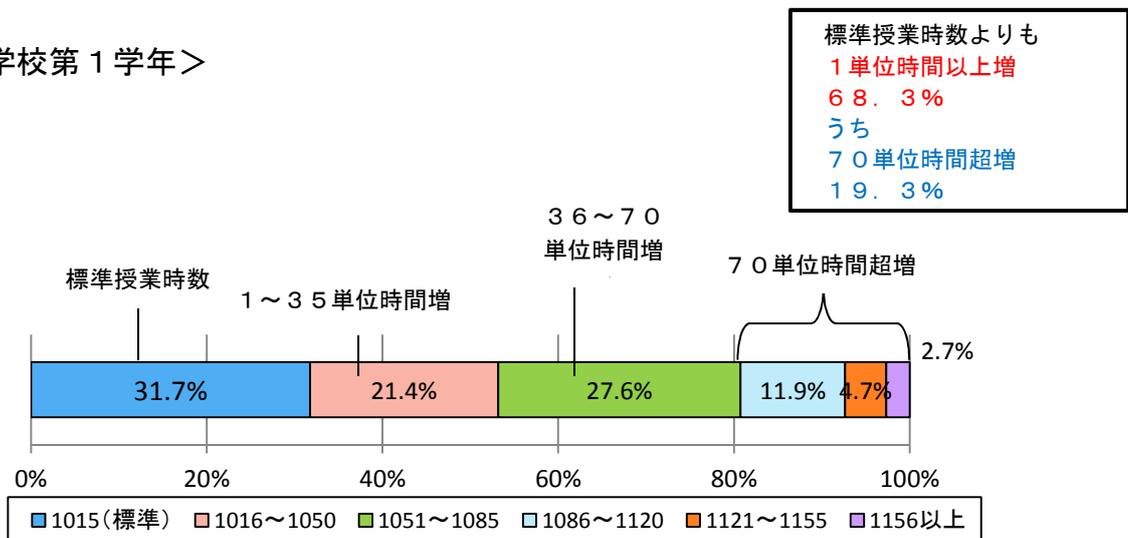
- ・ 標準授業時数と同数の授業時数を設定している学校が小・中学校共に約3割、
- ・ 標準授業時数を超えて授業時数を設定している学校が小・中学校共に約7割  
 うち標準授業時数を年間70単位時間を超えて上回っている学校は、例えば、  
 小学校第5学年では32.5%（25.0%）、中学校第1学年では19.3%  
 （21.7%）となっている。
- ・ 全体の平均値で見ると、多くの学年で標準授業時数を年間40～50単位時間程度上回る状況であるが、中学校第3学年については、標準授業時数を上回る時数が約15単位時間と他学年に比べ少なくなっている。

（例）

<小学校第5学年>

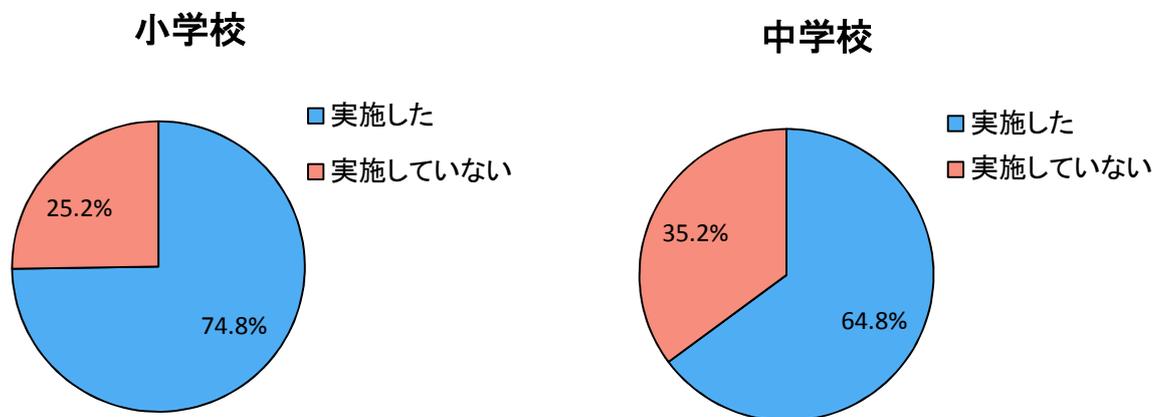


<中学校第1学年>



○ 短時間学習の実施状況（平成26年度実績）（本体P6）

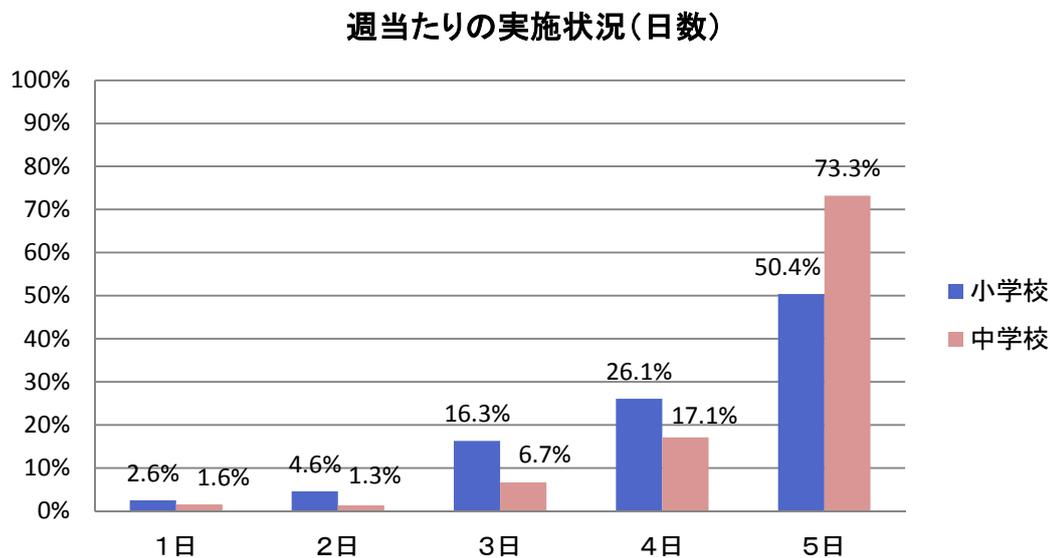
平成26年度に短時間学習を実施した学校は、小学校においては約74.8%、中学校においては約64.8%。



週当たりの実施状況については、下記グラフのとおり、短時間学習を実施している学校のうち、多くの学校が週に5日以上実施している。

※ 「短時間学習」とは、5分、10分、15分などの時間を単位として取り組む帯学習、モジュール学習などの学習形態を指す。

※ 下記グラフは、短時間学習を実施している学校における週当たりの実施日数を表している。



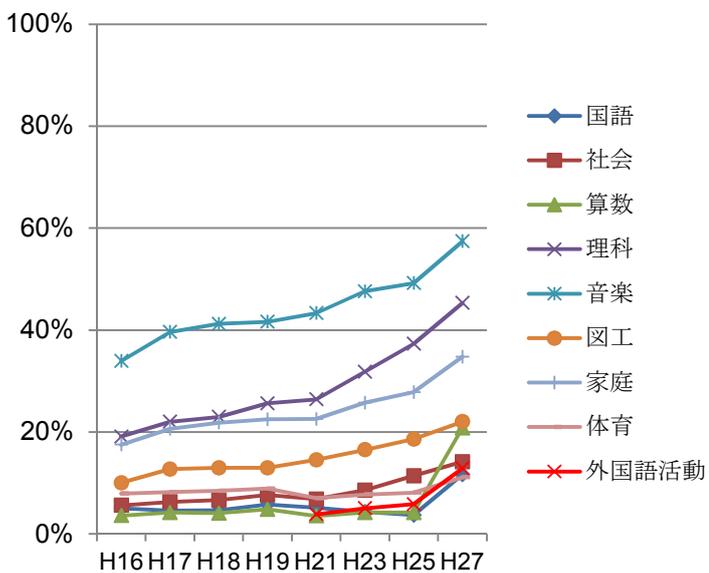
○ 教科等の担任制の実施状況（平成27年度計画）

平成27年度に、教科担任制による指導を実施する予定の公立小学校の割合は、ほとんどの教科及び学年において、平成25年度よりも増加している。

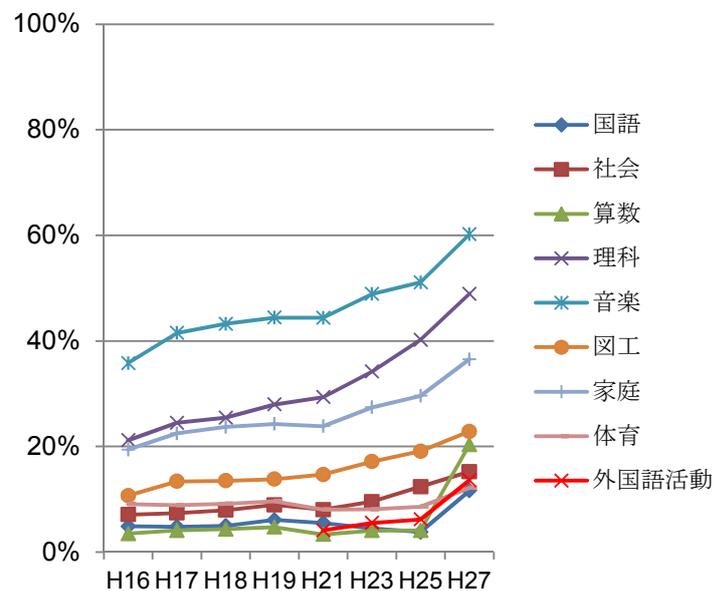
特に、第5学年及び第6学年では、教科等の担任制による指導を実施する予定であると回答した学校が、音楽で約6割、理科で約5割、家庭で約4割となっている。外国語活動については、前年より5ポイント以上増加している。

※ 教員の得意分野を生かして実施するもの、中・高等学校の教員が兼務して実施するもの、非常勤講師が実施するものなどを含む。

（第5学年）



（第6学年）

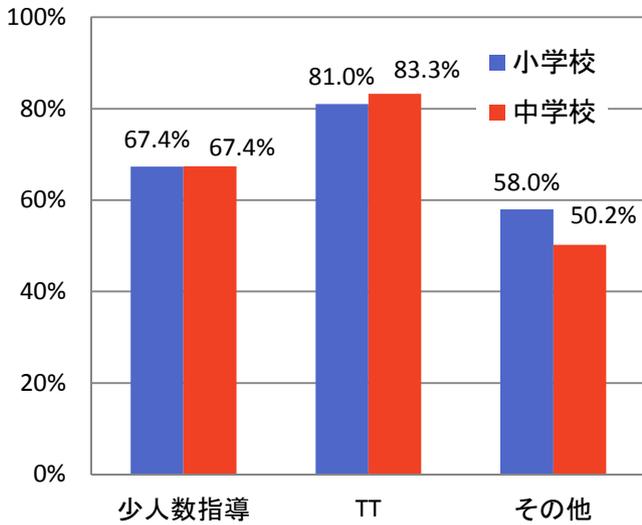


※ 国語が大幅に増加している原因は、今回の調査においては、書写の専科指導を計数に含めている学校が多くあったためと考えられる。

※ 算数が大幅に増加している原因は、今回の調査においては、チームティーチングの形式で行う授業に専科教員が参加する場合を計数に含めている学校が多くあったためと考えられる。次回以降の調査ではこの要因は取り除くこととする予定。

○ 個に応じた指導の実施状況（本体P 1 1、1 2）

平成27年度に、個に応じた指導として、少人数指導を実施する学校の割合は、公立小学校、公立中学校共に67.4%、TTを実施する学校の割合は、公立小学校において81.0%、公立中学校において83.3%。



（少人数指導）

例えば、①2学級を3つの学習集団に分けるなど学級の枠を超えて学習集団を編成し、それぞれの学習集団を異なる教師が指導する場合や、②1学級を2つ以上の学習集団に分け、それぞれを異なる教師が指導する場合など、通常の学級集団よりも小さい学習集団を編成して指導を行う場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

（TT）

例えば、①1学級を単位とし、学習集団を分けずに複数の教師が協力して指導する場合や、②1学級内又は学級単位を超えて学習集団を編成し、全部または一部の学習集団に対して複数の教師が協力して指導する場合など、1学習集団に対し2人以上の教師が協力して指導する場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

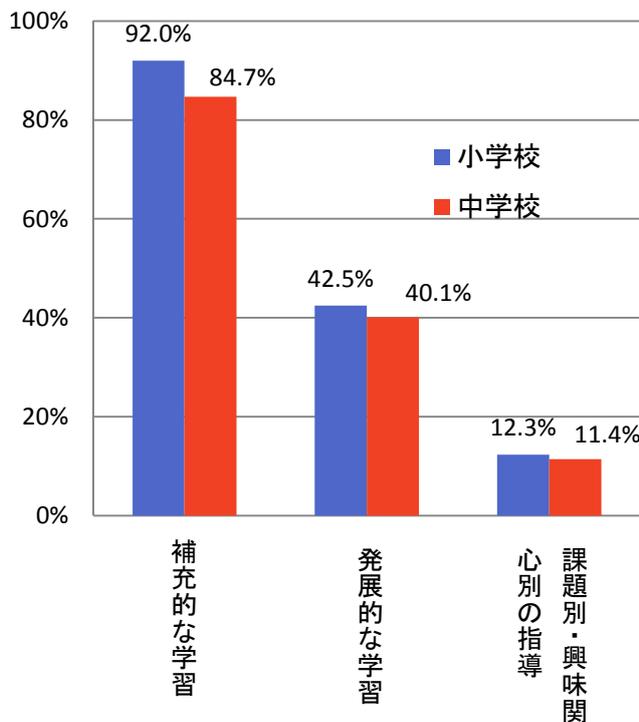
（その他）

例えば、1人の教師が、個人や学習集団によって異なる課題等を与えるなどの指導を行う場合など、少人数指導又はTT以外の方法で個に応じた指導を実施する場合。年間を通して実施するものだけでなく、特定の単元等、特定の時期のみ実施するものも含む。

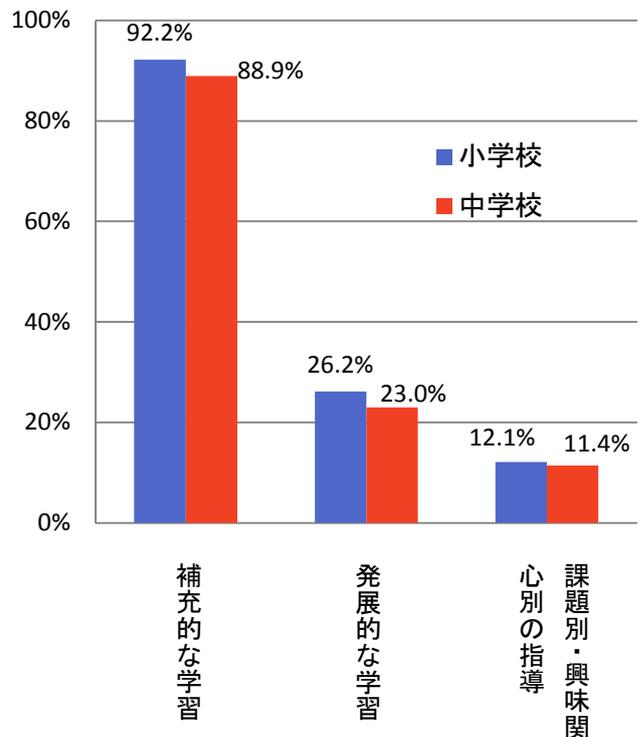
少人数指導、TTを実施する場合は、多くの学校が補足的な学習を取り入れた指導を実施している（下記グラフ参照）。

※少人数指導を行っている学校のうち、それぞれの学習を行っている割合を示している。

<少人数指導>

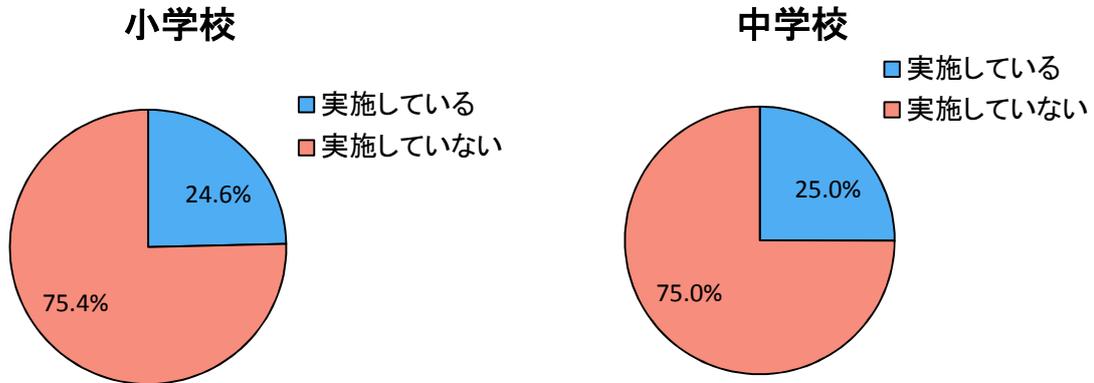


<TT>



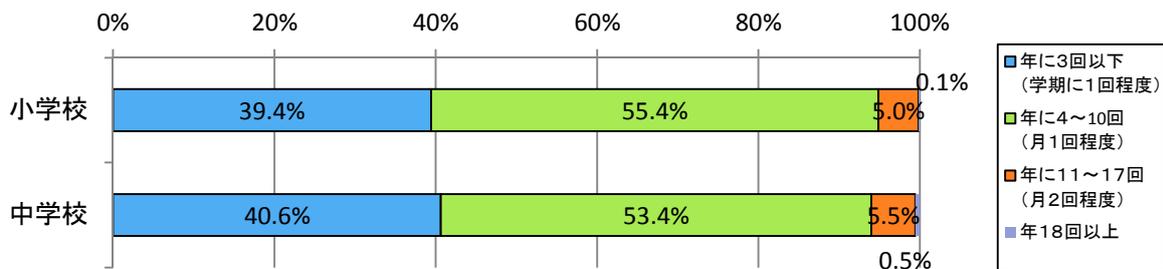
○ 土曜授業の実施状況（本体P14）

平成27年度、小学校において土曜授業を実施しているとした学校の割合は24.6%。中学校においては25.0%。

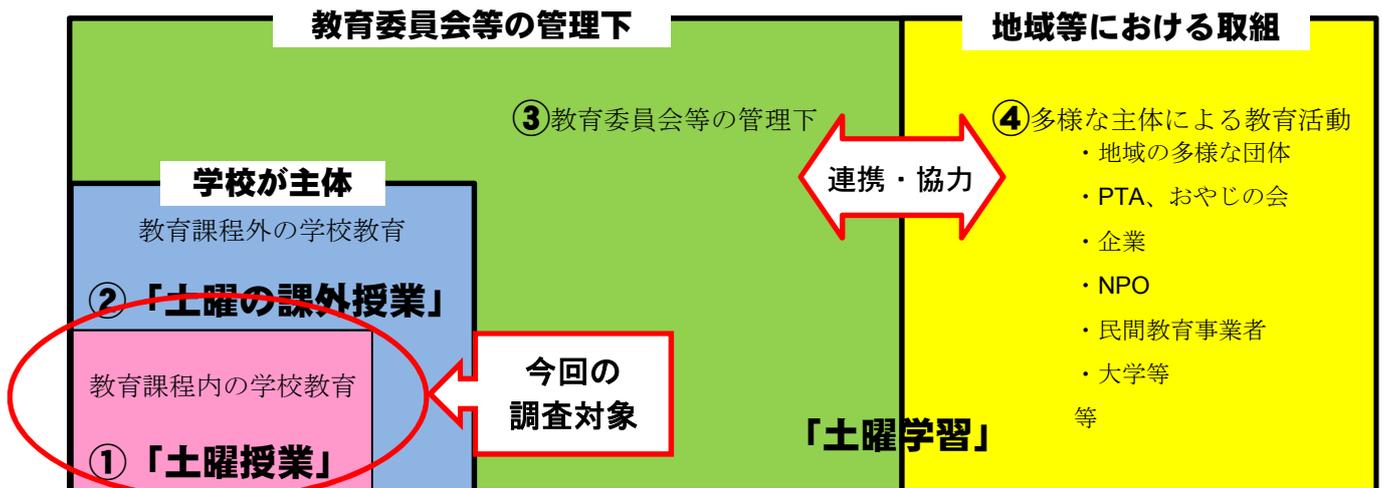


年間の実施回数については、小中学校共に5割程度の学校が「月1回程度」と回答している（下記グラフ参照）。

※下記グラフは、土曜授業を実施している学校における年間の回数を表している。



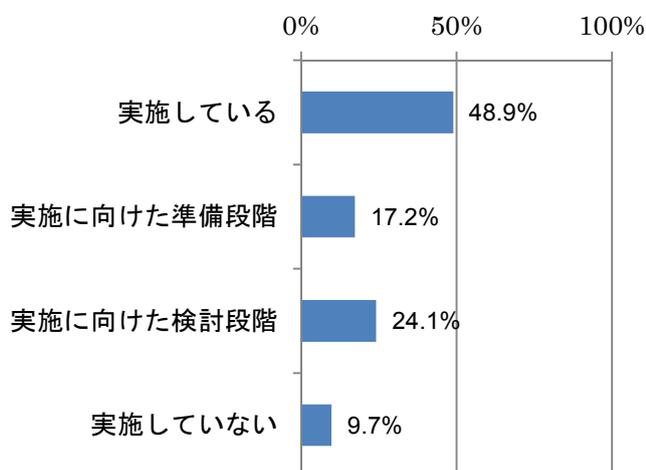
※ 土曜授業とは、児童生徒の代休日を設けずに、土曜日、日曜日・祝日を活用して、教育課程内の学校教育活動を行うもの。



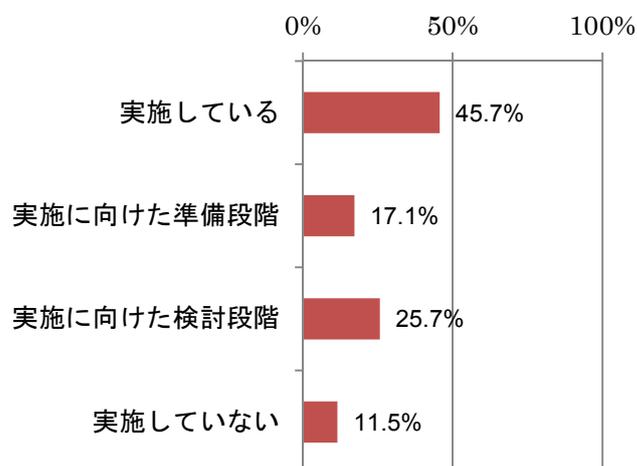
※ 「土曜日の教育活動の実施状況（平成27年度）」によると、土曜授業、土曜の課外授業、土曜学習のうち、いずれか一つでも実施予定の学校の割合は、小学校51.1%、中学校38.1%、高等学校55.2%、全体で47.8%となっている。

○ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた取組の実施状況（本体P10）  
 アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた授業研究、校内研修等の取り組み状況については、下記グラフのとおり。

〈小学校〉



〈中学校〉

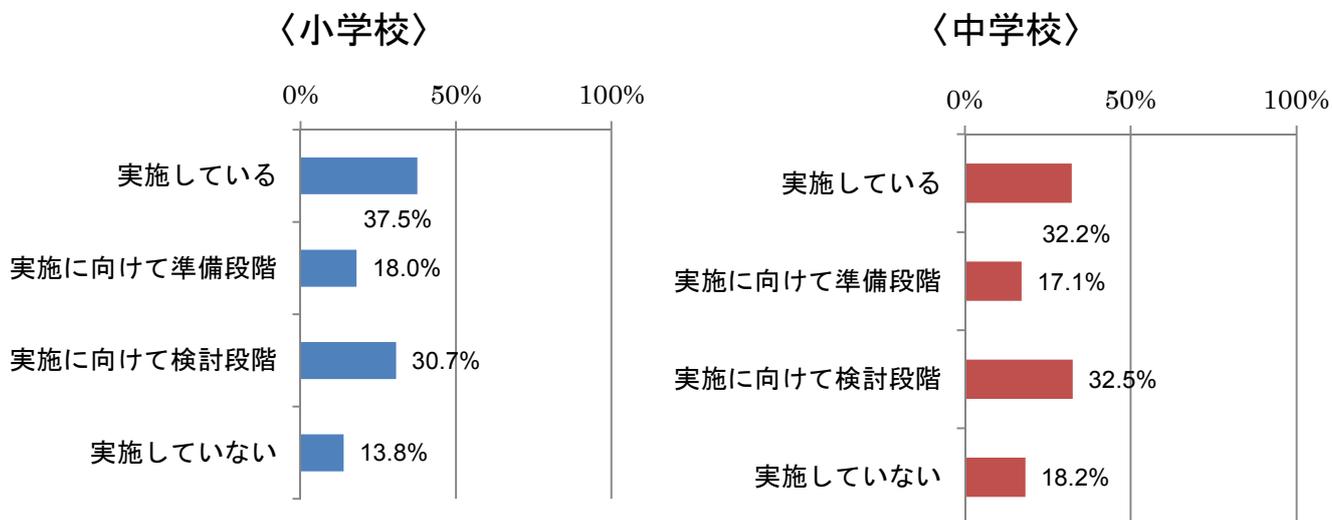


※ アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善：3つの要素

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

○ **カリキュラム・マネジメントの確立に向けた取組の実施状況（本体P15）**

カリキュラム・マネジメントの確立に向けた授業研究、校内研修等の取り組み状況については、下記グラフのとおり。



※ **カリキュラム・マネジメントの3つの側面**

- ① 教育内容を、一つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え、効果的に編成する。
- ② 子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善のサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、指導体制やICT活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。